

立山黒部ジオパーク基本計画

－ 第3期 －

2023年4月1日

第3期立山黒部ジオパーク基本計画の策定にあたり

白雪を戴く立山の峰々を仰ぎ見るとそこに理想があり、緑萌える富山の里には希望があり、そして蜃気楼の出る有磯の海には夢があります。立山黒部ジオパークにはわれら県民の理想と希望と夢があります。

豊かな地域とは豊かな自然があり、心豊かな人が住んでいるところです。富山には立山黒部ジオパークがあり、人々はみな心豊かです。

このジオパークを県民のみなさんに、世界中の方々に見ていただき、そして子供たちがこの美しく豊かな立山黒部ジオパークで遊び、学んで心豊かに育っていくことを願ってやみません。

現在（present）は過去からの贈り物（present）です。われわれはこの美しく豊かな富山に生きている現在に感謝し、地域に貢献していかねばなりません。ジオパークも過去からの贈り物、これを大切に守り愛していきたいと思えます。

第3期の基本計画策定に当たり、あらためてジオパークの目指すところを明確にするとともに、そこに向かって行動する意を強くするものであります。

一般社団法人 立山黒部ジオパーク協会
会長 中尾 哲雄



写真．滑川沖から見た早月川扇状地と立山連峰。

目 次

1. 立山黒部ジオパークの基本計画書の主旨	1
2. ジオパークとは	1
3. 基本計画の目的と計画期間	1
3-1. 目的	
3-2. 計画期間	
4. 立山黒部ジオパークの特色とエリア	1
4-1. 特色	
4-2. 立山黒部ジオパークのエリア	
5. 立山黒部ジオパークの理念と目指す姿	3
5-1. 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会の理念	
5-2. 目指す姿	
6. 立山黒部ジオパークの推進組織	5
6-1. 組織化の経緯	
6-2. 組織の特徴	
6-3. 組織構成と運営方法	
6-4. 組織の財政基盤	
7. 第2期基本計画の総括	8
8. 基本計画における活動取り組み方針	9
9. 教育・情報発信 ～宝ものを広く共有する～	11
10. ツーリズム ～地域を元気にする～	23

1 1. 防災 ～災害に強い地域を目指す～	3 0
1 2. 保護・保全 ～宝ものを未来につなげる～	3 1
1 3. 組織強化 ～持続可能な経営基盤を整備する～	3 3
1 4. 実施計画	3 8
添付資料 第2期基本計画の総括	4 3

1. 立山黒部ジオパークの基本計画書の主旨

立山黒部ジオパーク（以下、「当ジオパーク」という）は目指す姿の実現に向けて第1期基本計画、第2期基本計画を策定し事業を行ってきました。第2期基本計画が2022年度で終了することから、新たに第3期基本計画を策定しました。第2期の評価を踏まえ、当ジオパークの活動の一層の充実と発展を図り、そのレベルを向上させていくための指針となるものとししました。

2. ジオパークとは

ジオパークとは自然科学プログラムの一つで、学術的に価値の高い地形・地質遺産を保全し、学習や教育に活用するとともに、地形・地質遺産が育んだ自然・文化・無形遺産を地域経済の活性化に活かす事業が行われる地域です。

また、これらの活動自体を指します。

3. 基本計画の目的と計画期間

3-1. 目的

当ジオパークは、持続可能な開発の理念や目標を地域内で共有し、一般社団法人立山黒部ジオパーク協会（以下、「当協会」という）の会員と地域内の参画者がそれぞれの立場で計画的に事業に取り組む際の指針となる基本計画を策定します。また、当ジオパークが一体となって活動できるよう、基本計画及びそれに基づく実施計画を策定し、地域に持続可能な社会を実現していく事業に取り組みます。

3-2. 計画期間

基本計画は5年ごとに目標を定めて策定します。今回の計画期間は2023年4月から2028年3月の5年間です。

4. 立山黒部ジオパークの特色とエリア

4-1. 特色

当ジオパークには、標高3,000m級の飛騨山脈から水深1,000mを越える富山湾まで、4,000 mにも達する高低差があります。その高低差の中には約38億年前の鉱物を含む大陸起源の岩石や約1億2000万年前の恐竜足跡化石群、日本海の誕生を語る地層、山脈の急激な隆起を裏付ける世界一新しい露出花崗岩など様々な地質がみられ、当ジオパークを特色付けるものとなっています。

また、今からおよそ300万年前の飛騨山脈の隆起が引き金となり、この地域にダ

イナミック（量・速度）な水循環が生まれました。対馬暖流を越えて来る季節風は飛騨山脈に世界屈指の多雪地帯を生み、高さ20mもの雪の回廊や日本唯一の氷河群をもたらしました。雪解け水は立山カルデラに代表される大規模侵食地形や急流河川、広大な扇状地群、湧水帯を形成しました。そして4,000 mに及ぶ高低差は、地域特有の生物圏や文化圏を育んでいます。

このように当ジオパークでは、日本列島形成史の縮図とも言える多様な大地の履歴と、それらが生み出した固有の環境をみることができます。

4-2. 立山黒部ジオパークのエリア

当ジオパークのエリアは飛騨山脈と富山湾に囲まれており、山岳から平野部を経て深海に至るまでの多様な地形を含みます。この陸域には富山県東部の9市町村（富山市、魚津市、滑川市、黒部市、舟橋村、上市町、立山町、入善町、朝日町）が存在し、海域には臨海扇状地の海底地形、宮崎海底断層が含まれ、両者を合わせた総面積は3,904 km²に及びます。当ジオパークエリア内の人口は60.9万人（2020年時点 国勢調査）で県内人口の約60%を占めています。

当ジオパークエリアのうち、6市町（富山市、魚津市、黒部市、上市町、立山町、朝日町）にまたがる764 km²の地域は中部山岳国立公園と4つの県立自然公園を持ち、当ジオパークは自然公園の占める比率が高いという特徴があります。平野部には扇状地が発達し、主要な生活圏となっています。（図1）



(図1) 立山黒部ジオパークのエリア

5. 立山黒部ジオパークの理念と目指す姿

5-1. 一般社団法人立山黒部ジオパーク協会の理念

立山黒部ジオパークは

- (1) みんなで「学び、楽しむ」
- (2) みんなで「守り、伝える」
- (3) ふるさと富山を「元気にする」
- (4) みんなの「絆を強め、想いと知恵を活かす」

を理念として掲げています。

5-2. 目指す姿

自然と共生してきた歴史を学び受け継ぎ、自然の多面性や地域の課題理解を深めて持続可能な豊かな社会づくりをすることに共感する人を増やします。持続可能な豊かな社会づくりを実現する活動に多くの人が参画している地域となることを目指

します。

5-3. 目指す姿に向けての活動

高低差4,000mの大地と、それが育んだ動植物と人々の暮らしは“富山の宝もの”です。当ジオパークは、4つの活動を推進することで持続可能な社会づくりに貢献します。(図2)

①宝ものを広く共有します

富山の価値を地域で共有し、全国・世界に発信します。
子どもから大人まで年代を超えて楽しめます。

②地域を元気にします

ジオパークは、宝ものを活かして地域を発展させる取り組みです。

③災害に強い地域を目指します

過去の自然災害に学び、防災意識を高めます。
自然をよく知ることで、これからの防災・減災に役立てます。

④宝ものを未来につなげます

宝ものの価値を学び、“ふるさと愛”を育みます。
宝ものを守り活かす活動を、次世代に引き継ぎます。



図. 立山黒部ジオパークが推し進める活動と事業 (※イメージ図)

(図2)

当ジオパークの目指す姿を分かり易くしたものが(図2)です。活動全体を樹木で表現

しており、樹木は目指す社会とかぶらせています。それぞれの活動から得られる成果を果実で表しました。

6. 立山黒部ジオパークの推進組織

6-1. 組織化の経緯

当ジオパークは、民間の運営組織として2012年6月に研究者やガイド活動家を中心に「ジオパーク推進組織設立準備委員会」を設置し、2013年1月には「黒部・立山ジオパーク研究会」を組織してジオガイド養成などの活動を開始しました。

2013年12月には「黒部・立山ジオパーク研究会」を発展的に解消して「立山黒部ジオパーク推進協議会」としました。

そして、日本ジオパーク認定時（2014年8月）における日本ジオパーク委員会の指摘もあって、組織強化を図るべく2015年4月に法人化し、「一般社団法人立山黒部ジオパーク協会」としました。

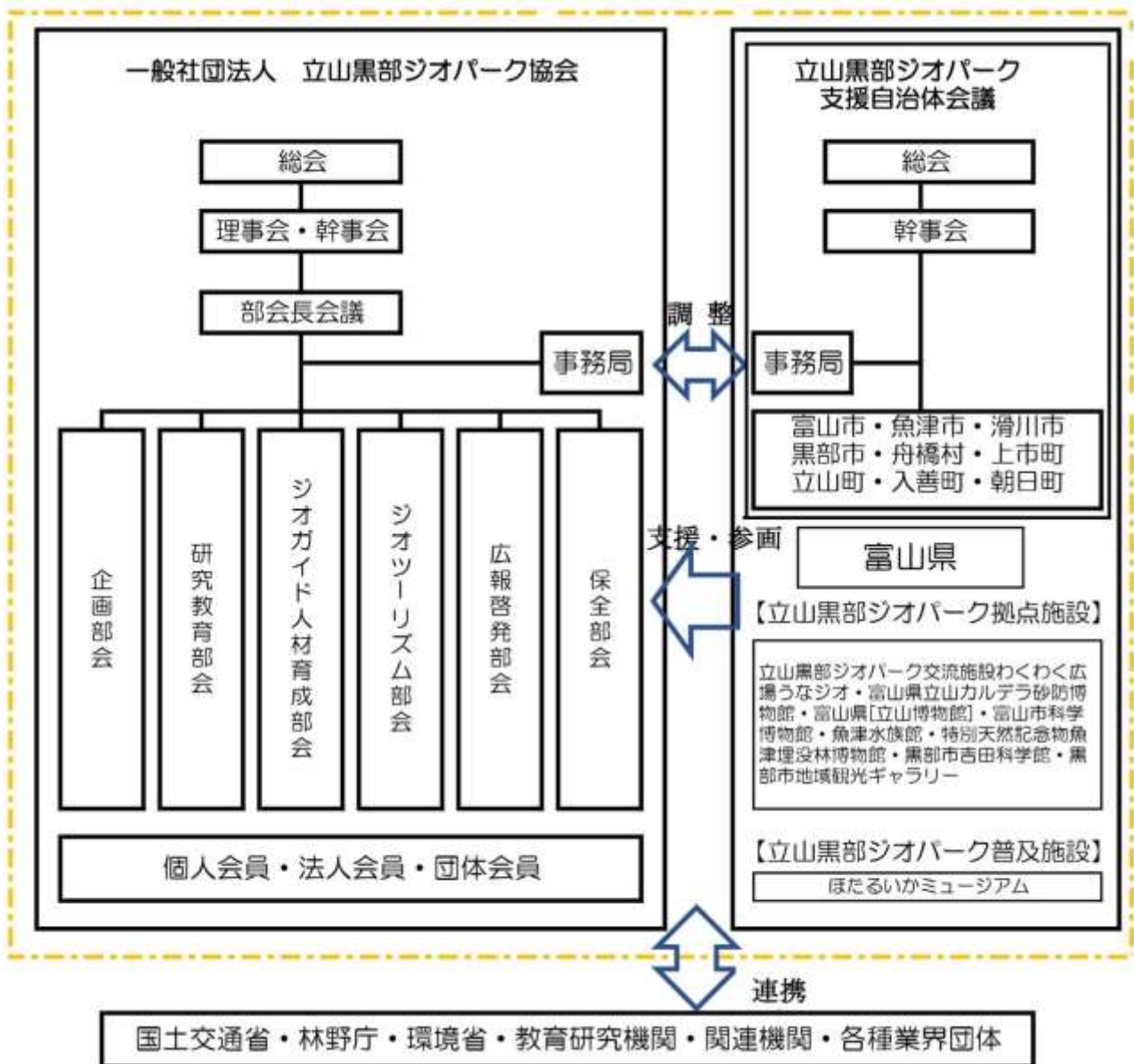
6-2. 組織の特徴

当ジオパークでは民間組織である当協会が運営組織となっています。当ジオパークの目的や理念に基づき、広域での活動を円滑に進めるため、民間組織と行政組織は役割を分担し、それぞれが得意とする分野を担い、連携を図っています。

また、当協会は法人会員と個人会員により構成され、2023年3月末時点で個人会員347名、法人会員209団体で、合計556会員となっています。各会員はジオパーク活動の理念、そして当ジオパークの理念と目指す姿を共有し、それぞれの立場でジオパーク活動を行っています。

6-3. 組織構成と運営方法

当協会は総会、理事会・幹事会、専門部会、事務局により構成されています。会員による総会は原則年1回開催し、規約の制定と改廃、事業計画と予算などの決定やその他の重要事項の審議を行います。理事会と幹事会は、総会に諮る議案の検討や事業計画の執行を担います。専門部会には「企画」「研究教育」「ジオガイド人材育成」「ジオツーリズム」「広報啓発」「保全」の6つを設置し、事業計画の策定及び運営に当たっています。事務局は2023年3月末現在、専任職員と黒部市と富山市より協力を得た職員で構成されています。また、当協会の事業活動に対して、富山県と立山黒部ジオパーク支援自治体会議（富山市、魚津市、滑川市、黒部市、舟橋村、上市町、立山町、入善町、朝日町で構成）に支援・参画してもらい、当協会を含めた「立山黒部ジオパーク連絡会議」を開催して企画・調整及び関係者の合意形成を図っています。（図3）



(図3)

当ジオパークでは、ジオパーク活動の拠点施設として、エリア内の博物館を中心に8施設を設けています。このうち、立山黒部ジオパーク交流施設わくわく広場うなジオには、当協会のジオガイドが繁忙期に常駐しています。また、ほたるいかミュージアムはジオパークの普及啓発に協力する施設となっています。

専門部会一覧

部会名	担当
企画	<ul style="list-style-type: none"> ・社員総会時の講演会、シンポジウム／フォーラムの実施 ・ジオカフェなど啓蒙活動の実施 ・法人会員企業などとの連携事業の企画及び実施 ・山岳ジオガイドの養成及び研修
研究教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるジオ的な調査研究 ・サイト（ジオ、自然、文化）の選定や現状調査 ・ガイドブック、学習プログラムなどの作成 ・「リレー講演会」などセミナーの実施 ・各種団体への講師派遣、講師バンクリストの作成
ジオガイド人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオガイド養成講座の実施とジオガイドの認定 ・ジオガイド交流の実施 ・スキルアップ研修の実施 ・ジオガイドリストの作成
ジオツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターツアーの実施 ・ジオツアー商品の企画や実施 ・ジオフード・ジオ商品の開発
広報啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ロゴマーク、シンボルマークの普及 ・ホームページや各種SNS、メディアなど各種広報ツールを利用した情報発信 ・国内外における情報宣伝ブースなどの開拓・設置・経営 ・若年層への浸透策の策定・実施
保全	<ul style="list-style-type: none"> ・当ジオパーク内のサイト（ジオ、自然、文化）の保全、モニタリング ・保全計画の改定

(表1)

6-4. 組織の財政基盤

当協会は独立した予算・財務管理を行っています。主な収入は会員会費や富山県及び支援自治体会議からの助成金、ジオツアーなどの事業収入です。これらの収入は、ジオガイド養成や広報普及、他地域ジオパークとの交流などの事業費、人件費や事務費などの管理費に充てられます。

7. 第2期基本計画の総括

第2期基本計画においては、重点的に4つの事業に取り組むこととしました。計画期間を振り返り、それぞれの事業の総括は以下のとおりです。

・人材育成

21項目の事業を計画し、19項目（90%）で達成若しくは概ね達成することができました。

教育の分野では活動の目的・目標について改めて検討し、活動に対するモチベーションを高めていくことが今後の課題です。

ジオガイドの人材育成については、有効な活動ができるようガイドの人数確保とスキルアップが課題です。

・情報発信

41項目の事業を計画し、26項目（63%）で達成若しくは概ね達成することができました。

関係団体との連携や最新技術の活用などを通し、情報発信手段の増大と発信量の拡大が今後の課題です。

・環境保全

15項目の事業を計画し、5項目（33%）で達成若しくは概ね達成することができました。

保全部会を設置し、保全活用計画を策定するなどの成果を残すことができました。

保全意識の醸成を進めることや、サイト（ジオ、自然、文化）（以下、「サイト」という）のモニタリングを実施することが今後の課題です。

・組織強化

32項目の事業を計画し、17項目（53%）で達成若しくは概ね達成することができました。

ジオパークネットワークへ積極的に参加（全国大会・研修会・ZOOM研修会など）しました。

新規会員の加入の促進や各種団体との連携が今後の課題です。

各々に対する評価と今後の課題についての詳細は最後に記載の添付資料のとおりです。

8. 基本計画における取り組み方針

第3期基本計画においては、第2期基本計画の4つの柱を少し見直し、ケントの樹に示す4つの大きな事業（大項目）に整理しました。

また、計画を推進するに当たっては組織力の強化が不可欠であることから、組織力の強化を加えて大項目は5つとする計画としました。

第3期基本計画の策定に当たっては、第2期基本計画及びその計画期間中の経過を反映した改訂版の2つの版の計画の総括を踏まえることとしました。その結果、活動事業の中から重点取組事業を選び優先度を上げるなど、活動にメリハリをつけることとしています。また、効率的に活動を展開できるようにするため、事業活動を中心となって進める主担当部会を定めました。（表2）

全国各地にあるジオパークは多くが市町村が主体となって構成される組織によって運営されている中で、当ジオパークだけが民間主導の組織によって運営されています。当ジオパークはこの特色を活かし、他地域ジオパークには見られない企画運営を目指します。事業における課題の解決に当たっては、このことがベースにあることを意識します。

基本計画事業

大項目	事業名称		重点 取組	主担当
教育・情報発信 ～宝ものを広く共有する～	ふるさとジオ学習	小中高校生対象とした活動	○	研究 教育 部会
		大学生を対象とした活動		
		生涯学習の支援		
		研究活動および研究活動への支援・助成	○	
		E S Dの実践	○	
	情報発信	最新技術活用	○	広報 啓発 部会
		看板整備		
		パンフレット作成		
		インターネット活用		
		情報発信の改善		
		拠点施設展示		
		広報誌の発行		
	特色ある活動の発信	○		
	ツーリズム ～地域を元気にする～	ツアーの実施		○
ジオガイド体制の強化		○	ジ ^オ カ ^イ ト ^人 材 育 成 部 会	
地域づくり		事業者との連携	○	企画 部会
		地域間連携	○	
SDG s の実践		○		
経済活動への貢献		○		
防災 ～災害に強い地域を目指す～	防災意識の普及啓発		○	企画 部会
保護・保全 ～宝ものを未来につなげる～	保全意識の醸成			保全 部会
	サイトの保全活動		○	
組織強化 ～持続可能な経営基盤を整備する～	組織の活性化	部会の活性化	○	事務局
		既存活動への参画		
		協定の締結		
	健全な財政基盤の構築	新規会員の加入促進	○	
	J G Nへの貢献	J G Nへの参加とその活用	○	
J G Nのワーキンググループへの参加				

(表2)

9. 教育・情報発信 ～宝ものを広く共有する～

9-1. ふるさとジオ学習

概略

当ジオパークには、38億年前の日本最古の鉱物をはじめとして、貴重な地質遺産や自然遺産、文化遺産があります。しかし、このことがエリア内の人々に広く十分に認知されているとは言えません。

当ジオパークの活動を通して、地域に住む人々が地元の魅力を新たに発見し、郷土への誇りを持つことを目指します。当ジオパークでは、小中高校生を対象とした活動、大学生を対象とした活動、生涯学習の支援を推進します。

9-1-1. 小中高校生を対象とした活動

概略

地域の未来を担う子どもたちに対するジオパーク教育を推進します。

課題

複数の学校で、当協会が実施するジオパーク教育を開催してきましたが、エリア内の全学校を対象としたジオパーク教育はまだ確立されていません。また、各自治体では、地域を学ぶ「ふるさと教育」が実施されていますが、ジオパーク教育との関連付けがなされていないことが課題です。

施策

自治体や各学校との連携を強化し、学校教育現場でのジオパーク教育の浸透を図ります。また、当協会は標準テキストや環境教育プログラムの教材を作成し提供します。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携を推進）

- ・ 当協会
当協会独自の標準テキストや環境教育プログラムの作成と活用の推進
自治体の副読本作成におけるアドバイザーの派遣
教員向け任意参加型研修の実施
- ・ 大学
教材やプログラム作成における協力
- ・ 企業
教材やプログラム作成事業への協力
- ・ 博物館
自然学習プログラムの実施
- ・ 自治体

「ふるさと学習」とジオパークとの連携の検討
広報誌による当協会が連携する博物館プログラムの周知



写真. 小学生のふるさと学習（左・中）、高校生の野外実習（右）

9-1-2. 大学生を対象とした活動

概略

当ジオパークのエリア内及びその周辺には、富山大学、富山国際大学、富山県立大学があります。これらの大学では、多くの留学生も学んでいます。内外を問わず学生に当ジオパークの魅力を知ってもらうこと、持続可能な地域づくりの知識・スキルを身につけてもらうことを目指し、大学と連携します。県内での就職につながることやエリア内外への発信力の強化などが期待されます。

課題

授業では、ジオパーク関連講座が実施されています。また、大学生向けの研修なども実施されています。富山大学とは総括連携協定を取り交わしたこともあり、授業やイベントなどでの連携が徐々に進んでいますが、他大学とは組織的な連携体制を取るには至っていません。

施策

大学との組織的な連携を実現します。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携を推進）

- ・当協会
大学との連携の重要性を説明
- ・大学
ジオパーク関連講座の定例化
持続可能な開発に関する事項の講座での取り扱い、または新講座の設置
地域資源やジオパークに関する学生の研究成果の当協会との共有



写真. 大学生向けゼミ研修、講義

9-1-3. 生涯学習の支援

概略

ジオパーク活動を機能させるためには、地域の社会人が地域の資産や持続可能な地域づくりを理解し、仕事や日常の活動に活かすことが不可欠です。社会人を対象とした生涯学習や企業の社員向け研修を強化・充実させ、地域の活性化に貢献します。

課題

ジオパークを取り入れた生涯学習活動は、自治体や博物館の生涯学習で実施されていますが、大地の歴史、民俗、動植物など様々な分野をジオパークと関連付けし、広く受講者を募る必要があります。また企業や各種団体においても、所属員向け研修にこのような生涯学習を取り入れていく必要があります。

施策

より多くの場で生涯学習や社員向け研修を実施します。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携を推進）

- ・ 当協会
 - 公民館活動と連携した講座の実施
 - 法人会員企業を中心に社員向け研修の実施
 - 市町村エリアごとの現地集合現地解散型ツアー（ジオパーク散歩）の実施
- ・ 博物館、学芸員
 - ジオパーク関連の展示
 - 社会人向け各種講座や野外学習会の実施
- ・ 自治体、公民館
 - 当協会と連携したジオパークを取り入れた生涯学習の広報



写真. 富山市民大学、ジオパーク散歩

9-1-4. 研究活動及び研究活動への支援・助成

概略

地域の宝についての調査研究活動を進めます。あわせて、当ジオパークに関わる調査研究活動への支援・助成事業について検討を進めます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携を推進）

- ・当協会
ふるさとジオ教育の内容やテキストの開発、検討
サイト及び候補地の調査、開発、選定
当ジオパークに関する調査研究への支援、助成検討
- ・博物館、学芸員
同上
- ・自治体、公民館
調査研究活動への協力、支援。

9-1-5. ESDの実践

概略

ESDとは Education for Sustainable Development の略称であり、当ジオパークでは「持続可能な発展のための教育」と訳しています。

気候変動や生物多様性喪失、資源枯渇、貧困拡大など、人類の開発活動に起因する様々な問題があります。これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な形で発展を続ける社会を実現することを目指します。ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。

課題

9-1 項に記すふるさとジオ学習としての取り組みが、全体としてE S Dの実践となるよう工夫に努めます。E S D研修会などへ参加するとともに、プログラムやテキストを検討する組織を作り、いくつかの学習活動についてE S Dの実践に結びつけていく必要があります。

施策

ふるさとジオ学習全体として社会の主体的創り手の育成を目指します。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
関係者との協議
E S Dに関するプログラム、テキストの整備

9-2. 情報発信

概略

当ジオパークには魅力的なサイトが多数あり、多くの方が訪れています。しかし、サイトを訪れた人が見るものは断片的であり、サイトにおける地球の歴史や近隣に住む人々の暮らしとの関係、近くの魅力あるサイトの存在などは、訪れただけでは分かりません。訪れた人により満足していただくため、サイトごとに地球の歴史や他のサイトとの関連などがどのように人々の暮らしとつながっているのかを示すジオストーリーを分かりやすく伝えます。

さらに、実際に現地に行かなくとも最新技術を活用してサイトの状況を把握したり、ガイドの解説を聞いたりできる仕組みを開発していきます。

また、ジオパーク活動を会員だけではなく、多くの方々に知っていただけるよう各種メディアなどを通じて発信します。

9-2-1. 最新技術活用

概略

実際に現地に行かなくとも最新技術（メタバース^(※)）を活用して、あたかも現地でサイトを見学したり、ガイドの解説を聞いたり、他の見学者と話し合ったりすることができる仕組みを検討、構築していきます。

(※)メタバースとは「メタ(meta/超越した、高次の)」と「ユニバース(universe/宇宙)」の「バース」とを組み合わせた造語です。インターネット上の仮想空間で利用者があたかも現地にいるように活動できる仕組みです。

課題

メタバース技術を持つ先進企業や団体などと協力して、具体的なサイトで事例

を作る必要があります。

施策

まず技術関連情報を収集し、次に先進企業・団体と事例研究を行い、さらに具体的なサイトで実証実験を行っていきます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
技術関連情報の収集、先進企業・団体へのサイト情報の提供、実証実験の実施
- ・先進企業・団体
技術情報の提供、アプリケーション開発、実証実験の実施

9-2-2. 看板整備

概略

看板は来訪者に当ジオパークを発信するツールです。その目的により以下の5つに分類されます。

歓迎看板	ジオパークに来たことを実感してもらうための看板
総合案内看板	ジオパーク全体の特徴やどこに何があるかを示す看板
エリア案内看板	総合案内よりも狭い範囲で特徴や何があるかを示す看板
誘導看板	サイトまでの道を示す看板
解説看板	サイトの価値やジオストーリーを示す看板

課題

サイトには日本ジオパークに認定される前から看板が設置されている場所もあり、結果としてデザインは共通化していません。

施策

統一デザインによって当ジオパークを視覚的に認識できるように、以前から存在する看板は改修時期に合わせて統一デザインに更新していきます。このため、自治体と協力して、環境に配慮しながら看板製作、改修、設置を行っていきます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
設置するサイトの候補選択と自治体への提示、予算化依頼
- ・企業
看板設置の協賛
- ・自治体
看板の新たな設置や改修の推進
- ・研究者、学芸員
ジオストーリーの裏付け



写真. 竹内天神堂古墳の解説看板、いたち川の解説看板（上）
祖母谷の解説看板（下）

9-2-3. パンフレット作成

概略

パンフレットは、来訪者はもとより、まだ訪れたことのない人へも当ジオパークを発信できるツールです。その目的により以下の2つに分類されます。

総合パンフレット	ジオパーク全体の特徴を示すパンフレット
ガイドMAP	どこに何があるかを示すパンフレット

課題

現在発行しているパンフレットは、エリア内のサイトの大まかな場所を示していますが、そのパンフレットに記載の地図だけではたどり着けないとの指摘を受けています。

また、県内の観光案内所やその他施設で配布していますが、県外に向けた配布はできていません。

施策1

看板の統一デザイン化を考慮して連携した見せ方にします。また、訪れたこと

のない人が行ってみたいと思ってもらえるよう配慮します。さらに、入会用、拠点設置用など用途に応じたパンフレットの作成を行います。

また、県外向けについては他地域ジオパークとの連携を通じて行います。

施策2

新技術への対応やデジタルパンフレットへの活用を検討します。これは、従来の印刷物のパンフレットに比べて環境負荷を減らすことができるため、SDGsの観点からも重要な役割を果たしていきます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
パンフレットの作成、配布
- ・自治体
パンフレットの配布
- ・企業
広告への協賛、パンフレットの配布
- ・他地域ジオパーク
当協会との連携を強化



写真. 現行パンフレット

9-2-4. インターネット利用

概略

多くの方がインターネットを利用できる環境を持ち、実際に利用して情報を得ていることから、当ジオパークの多くの情報をインターネットから発信するとともに、SNSを利用したコミュニケーションによりたてくろ^(※)ファンを増やしていきます。

※「たてくろ」は当ジオパークの愛称です。

課題

毎年ホームページをより見やすいものに更新し、ツイッターやフェイスブック、インスタグラム、メールなどによるタイムリーな応答、発信を行っていますが、

新技術への対応や更新など新たに措置を講ずる必要があります。

施策1

より見やすく分かりやすいホームページを目指して、必要な更新を継続していきます。

施策2

SNSを活用したコミュニケーションを継続してたてくろファンを増やすとともに、YouTubeなど多様なメディアを利用した情報発信を行います。

施策3

協賛をいただける自治体、企業、団体とのリンクを介して、タイムリーな情報を発信していきます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
ホームページの継続的な更新（新たな情報発信）、自治体、企業、団体へのリンク依頼
SNSへのタイムリーな対応
- ・自治体、企業、団体
当協会ホームページへのリンク対応

9-2-5. 情報発信の改善

概略

これまで様々な形でサイトやジオパーク活動の情報を発信してきましたが、より分かりやすく、身近に感じられる内容で新たに情報を伝えていきます。

課題

どうすればサイトやジオパーク活動の認知度を向上させていくか手探りの面もあり、『走りながら考える』『七転び八起き』の精神で情報発信の改善に挑戦していきます。

施策1

たてくろロゴマーク^(※)をあらゆる場面で使用し、認知度を向上させます。
例：各種看板、パンフレット・名刺などの印刷物、ホームページなどの電子媒体、スタッフジャンパー、当協会所有車、地鉄電車ヘッドマーク・・・

施策2

街中にある（その住民にとっては身近な）サイトを近隣へのチラシ折り込み、地区配布物（回覧版）などを通してお知らせし、より親しみに感じてもらいます。全地域に一斉に行うのは困難ですので、地域を限定し順にその範囲を広げていきます。

施策3

2022年4月に富山市で開催した富山県自然保護協会との「合同写真展」は好評を博しましたが、これを他地域（8市町村）でも順に開催します。これにより身近なサイトやジオパーク活動の認知度を向上させます。

施策4

県内マスメディア（放送、新聞、雑誌など）との連携を強化し、メディアで取り上げていただく頻度、内容を高めます。イベント開催時には事前にマスコミ発表（記者発表、記者会見など）を行い、認知度を向上させます。

特に、地元地域とのつながりが強いケーブルテレビ各局とのコラボレーションにより、サイト情報の提供、共同番組の制作を目指します。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
認知度向上策アイデアの実施（再検討を含む）
- ・自治体
当協会が実施するイベントなどへの支援・協力
- ・マスメディア各社
当協会が実施するイベントなどへの取材・支援・協力



写真. (※) たてくろロゴマーク

9-2-6. 拠点施設展示

概略

多くの人々が訪れる場所でサイトやジオパーク活動の情報発信を行います。

駅、空港	来訪者が降り立つ交通の拠点となる場所
拠点施設	普及施設も含めた、ジオパークの拠点となる場所

課題

駅、空港では展示できるスペースを確保することが難しく、ようやく一部の駅と空港で確保できたところです。また、当ジオパークの全体を紹介する拠点施設は一部に限られており、当協会と連携した活動の展開も十分ではありません。

さらに、来訪者の効率的なエリア内移動を支援する観点から、一部の拠点施設

では当該施設から近隣サイトへ誘導する展示をしていますが、このような拠点を増やす必要があります。

施策1

拠点施設との連携を強化して、展示方針の共有化を図り、近隣サイトや活動内容の展示スペースをいただきます。

施策2

駅や空港の有料広告スペースの活用を図るとともに、自治体の協力を得て公共スペースでの可視化を図ります。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・ 当協会
駅、空港などの公共施設での展示を実施、自治体や各拠点施設との連携を強化、全体提示を提案
- ・ 拠点施設
当協会との連携を強化、当ジオパーク全体展示の検討と実施
- ・ 駅、空港
展示スペースの確保



写真. 富山空港での展示

9-2-7. 広報誌の発行

概略

当協会は毎月1回「たてくろジオパークだより」（A4版4ページ）を編集し、会員や自治体、拠点施設などの関係先へ配信（電子メール添付ファイル、FAX、郵送など）しています。その内容はイベントなど諸活動の報告、今後の予定イベントの案内、拠点施設からのお知らせ、サイトの見どころ紹介、法人会員企業の紹介など多岐にわたっています。今後は更なる配信先の拡大により、サイト情報やジオパーク活動を発信していきます。

さらに、2024年度は日本ジオパーク認定10周年の節目に当たることから、イベントの実施とともに、「10年誌」（仮称）の発刊を予定しています。また、2020年10月に発刊した「立山黒部ジオパーク見聞録」に更なるサイト情報を付加した

改訂版を検討していきます。

課題

「たてくろジオパークだより」の配信先拡大については、引き続き自治体や法人会員企業との協力体制が必要です。

さらに、『読んでもらう広報誌』に向けた更なるサイト情報やジオパーク活動情報の収集、編集力の強化が重要となります。

施策1

「たてくろジオパークだより」の毎月発行を継続し以下の施策を実施します。

(a) 「ジオパーク活動の今」を全会員に発信します。

(b) 自治体や法人会員企業・団体のイントラネットに掲載していただくよう依頼します。

(c) 自治体の広報誌に折り込むことが可能となるよう検討します。

施策2

必要な資料を整理し、2024年度に「10年誌」を発刊する予定です。

施策3

「立山黒部ジオパーク見聞録（改訂版）」を発刊するために、改訂内容の選定、改訂部分の取材や実録を行います。第3期中（5年以内）の発刊を目指します。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

・当協会

広報誌に掲載する情報を取材・編集・発信（発刊）、イントラネット掲載の依頼
編集力の強化策の実施

・自治体、法人会員企業

イントラネットへの掲載



写真. たてくろジオパークだより

9-2-8. 特色ある活動の発信

概略

当ジオパークは全国で唯一民間主導の組織によって運営されており、この特色を生かしてユニークな事業・活動を行っています。これらの活動を他地域ジオパークに紹介し、全国に発信していきます。

施策

第3期では当ジオパークの事業や活動内容を積極的にマスコミへ発信するとともに、JGN（日本ジオパークネットワーク）を通じて他地域ジオパークにお知らせします。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会

当ジオパークが行うイベントや活動の予定や実施報告を積極的に発信



写真. 全国大会ポスター発表

10. ツーリズム ～地域を元気にする～

概略

この地域に点在する宝ものは、地形や地質、気候、景観などのジオ的特徴や、そこに息づく動植物の生態学的特徴、先人より受け継いできた文化的特徴が、大小の差はありますが様々に関わっています。これらの関わりを知ることは、本地域の魅力を高めるだけでなく、地域課題を解決することにも役立ちます。当ジオパークでは、地域住民とエリア外からの来訪者を区別せず、人が交わることで、地域が元気になり、関わった人々が楽しんでもらえるツーリズム活動を進めています。

これには地域のお宝を語ったり、体験させる方（ジオガイドや会員など）の存在が重要であり、“みんな”で観光や地域づくりに関わることを期待されています。

10-1. ツアーの実施

概略

現地を巡るツアーは、地域の魅力を理解してもらったり、その不思議を一緒に体験したり、自然環境の重要性を共に考えたりと、これまでにない多様な楽しみ方が求められています。そこには、ジオガイドの役割が重要であり、ストーリー性を持ったツアーコース作りや、見せ方が重要になってきます。これらを基本とし、ガイド対象地域の拡大や解説テーマの多様化にも挑戦しながら、付加価値の高いツアーを実施すると共に、ジオツアービジネスの支援を行っていきます。

課題

旅行業者と連携したツアーを実施していますが、実施件数は少なく、室堂平や弥陀ヶ原など従来の観光地でのツアーが主で、エリア全体に広がっていません。また、満足度の高いツアーを提供できる体制としては不十分です。

施策

これまで実施しているツアーにおいては、質的向上を図り、参加したことに満足感を持って帰っていただける内容にしていきます。併せて、ジオパークの視点を活かしたツアーを、様々な地域を対象として開発・実施しながら、その価値を広めていきます。さらにジオガイドがツアービジネスにおいて必要な存在になれるよう法人会員の旅行事業者と連携しながら支援してまいります。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・ 当協会
 - 既存ジオツアーの改良
 - コースの開発、ツアー広告、試行ツアーの実施
 - 公認ジオツアーの認定
 - ジオツアービジネスへの支援
 - ジオトレイル設置に向けた取り組み
- ・ 法人会員企業
 - ジオツアーの実施
- ・ 観光業界
 - ジオツアーの広報、開発支援
- ・ 研究者、学芸員
 - 専門的視点による新たな価値の提案
- ・ ジオガイド
 - ガイドの実施、ジオツアーの開発支援



写真. ジオツアー

10-2. ジオガイド体制の強化

概略

ジオガイドはジオパークに関する深い知識をもつことに加え、地域の魅力を内外に発信する語り部でもあります。ジオガイド育成の体制を充実させることで、当ジオパークの発信力強化を図ります。

課題

143名のジオガイドが認定されていますが、このうち実際にガイド活動に携わっているのは42名です。コロナ禍の影響もありましたが、活動の場（ツアーや研修など）が少ないことが課題です。

施策

活動に携わっているジオガイドをスキルに応じてステージⅠ、ステージⅡなどとしてレベル分けをしました。従来からのジオガイドスキルアップ研修は継続します。また、この研修はステージⅠからのステージアップ認定や、ステージⅡの再認定の際の検定項目として組み入れられています。

スキルアップのためには、研修だけでなくジオガイドが相互に意見を交換する場を設けます。これらのことがツアー内容のブラッシュアップにつながると考えます。

ジオガイドの活躍の場を拡大するため、大手旅行事業者や法人会員の旅行事業者に取り扱っていただけるツーリズム商品の開発を進めます。また、ジオガイドが意見を出し合い、既存のツアー内容をブラッシュアップしていきます。

安定的なジオガイドの人員確保のため、新規ジオガイド養成講座を定期的に実施します。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
新規ジオガイド養成講座の実施
スキルアップ研修、

新規認定およびステージアップ（Ⅰ→Ⅱ）のための検定の実施
ジオガイドや旅行事業者などの関係機関との連絡調整

- ・博物館、学芸員、大学
スキルアップ研修、新規ジオガイド養成講座における講師派遣
- ・旅行事業を行う法人会員企業
観光商品の開発協力、ツアーの実施



写真. 新規ジオガイド養成講座、スキルアップ研修

10-3. 地域づくり

概略

当ジオパークは、当協会の組織を活用し、法人会員企業や関係団体と連携した事業を行ってきました。これら特色ある活動を当ジオパーク全体に広げていくために、住民ニーズや来訪者ニーズを捉えながら、世代間のギャップや分野の垣根を超えて横展開していくことが求められています。これにより、様々な立場の方が参画し、多様な意見を組み合わせた最適な地域貢献活動を行うことができ、結果として地域を元気にすることになります。

10-3-1. 事業者との連携

概略

多くの企業はCSR活動や地域貢献活動を行っており、その1つとしてジオパーク活動に参加しています。法人会員企業として、地域や住民に届くジオパークを活用した連携事業を行える環境づくりを進めていきます。

課題

法人会員企業と地域貢献事業などで連携事業を行ってきましたが、その活動の輪が広がっていません。

施策

連携事業を広く紹介し、法人会員企業との新たな連携を図っていきます。また、当ジオパークならではの地産地消の商品に対する公認マーク制度を設け、ジオパー

ク的価値を広めていきます。さらに、法人会員企業同士により新しいジオパークビジネスが行える環境づくりを整えていきます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
法人会員企業との連携事業のPR
ジオフードなど公認マーク制度の創出
企業間連携の環境づくり
- ・法人会員企業
ジオパーク連携事業の実施
公認マーク制度への協力



写真. チャレンジライドにいかわ 2022、企業との連携（サイト解説）

10-3-2. 地域間連携

概略

9市町村からなる広大なエリアにおいては、優れた活動も往々にして一部地域に留まってしまいます。このため、これら優れた活動を広く活用できる機会を作っていきます。さらに、その地域が求めているニーズを的確に把握し、地域や世代、分野などを有機的につなぎながら、地域づくりに貢献していきます。

課題

様々な活動団体と連携した活動を取り組んできましたが、個別事案に終始しています。

施策

地域に住まいする人々が参加しやすいシンポジウムやフォーラムなどの事業を実施し、優れた会員活動を知り活用していただく機会を広く提供していきます。

地域が必要としている活動を行えるようアンケート調査などを行いニーズの把握に努めます。その上で、活動団体や企業と連携して地域貢献活動を展開していきます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
シンポジウムなどの開催
アンケート調査、ニーズ分析
- ・自治体
シンポジウムなどの支援
地域でのジオパーク活動の推進
アンケート調査、ニーズ調査の協力
- ・会員
アンケート調査の協力



写真. 埋もれ木サミット（共催）、国際山岳年プラス 20 シンポジウム in 黒部（共催）

10-4. S D G s の実践

概略

ジオパークはユネスコ事業であることから、S D G s（持続可能な開発目標）の達成のために貢献することが求められています。

S D G s は 2030 年までの目標が掲げられており、第 3 期基本計画の終了年が 2027 年であることから、計画期間中に地域の資源や課題を通して具体化させ、当ジオパークとして一定の成果を求めています。

課題

S D G s とジオパークとの関連付けは、J G N 事業などを通して理解を深めてきましたが、会員や地域とはほとんど共有されていません。また、法人会員企業の中には、S D G s での活動を行っていますが、当ジオパークとの連携が図られてません。

施策

当ジオパークにおける具体的な目標への課題解決を、会員（個人、企業）や地域と連携、協議し、具体的な活動を行なっています。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
SDGs とジオパークの関わりを啓蒙
具体的な活動の仕掛けづくり
- ・企業
SDGs 事業における当ジオパークへの協力
- ・研究者、学芸員、ジオガイド
具体的活動の学術支援

10-5. 経済活動への貢献

概略

地域で生産している商品の多くには、地形や地質、気象などジオ的要素が含まれています。これらにジオパークならではの価値を付加することで地域経済へ貢献していきます。

課題

ジオパークの視点で地域の特産品に価値づけする活動は、呉羽なしでジオ的解説を提供したのみに留まっています。

施策

商品に対するジオパークの付加価値を提供するとともに、当ジオパークならではの商品の開発、販売を促していきます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
商品に対するジオパークの利用価値の普及
ジオパーク商品の開発支援
- ・企業、業界団体
商品におけるジオパーク的価値づけ
新規商品の開発、販売
- ・研究者、学芸員、ジオガイド
学術支援



写真. ジオパーク商品

1 1. 防災 ～災害に強い地域を目指す～

概略

防災・減災に対する取り組みはジオパークの重要な活動のひとつに位置付けられています。特に変動帯に位置する日本では地震や火山の噴火が多く発生します。また、山と海が近接する地形的な特徴と多雨多雪の気候により土砂崩れ、洪水、土石流の発生の頻度が高く、災害の危険性は高いと言わざるをえません。とりわけ当ジオパークにおいてはこの特徴が際立っており、防災・減災のための知識や避難行動への備えが重要です。

当ジオパーク内の自治体、地域住民、企業などとともに、防災・減災のための知識や理解を深め、自然現象による被害を最小限に抑える地域づくりをする必要があります。当ジオパークはその一翼を担っていきます。

11-1. 防災意識の普及啓発

課題

他団体との連携事業において防災啓発を実施していますが、当ジオパーク独自の体系だったものではありません。

施策

当ジオパークが行う様々な広報、教育活動においての防災に関する意識向上を目指した取り組みを実施するとともに、自治体、博物館、大学、企業やその他の団体との連携や後援で防災知識・意識の向上に努めます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

・当協会

様々な広報、教育活動においての防災に関する意識向上を目指した取り組みを実施

防災士会や防災関連施設との連携を図り、既存の防災活動との連携・後援

- ジオガイドの防災研修の実施及び防災ジオツアーの開発、実施
- ・自治体、博物館、大学、企業やその他の団体
- 防災関連事業の実施

12. 保護・保全 ～宝ものを未来につなげる～

概略

私たちの大切な宝物である自然を保全することは、持続可能な地域づくりの前提です。ジオパークではサイトを保全しながら、教育や観光などに活用します。

当ジオパークの一部は国立公園や県立公園などに指定されており、当該地域は法的に保護されています。またサイトによっては、文化財として保護されているものもあれば、博物館が保全しているものもあります。

さらに、保全活動を拓げるためには地域住民や来訪者向けの保全意識の普及も重要です。

12-1. 保全意識の醸成

概略

地域のサイトを守るためには、地域住民や来訪者に保全意識が浸透していることが必要です。

課題

ツアーや各種講座などを通してサイトの価値を伝えていますが、保全の分野に踏み込んだ活動としては十分といえず、保全意識が浸透するには至っていません。

施策

学校や拠点施設、普及施設で行うジオパーク教育や、関連ツアーでの解説を通してサイトの保全意識を普及します。また、パンフレット、広報誌、各種SNS、ホームページ、メールなどでも情報提供を行います。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

・当協会

保全活用計画の活用

当協会主催の各種講座やツアーで保全の重要性や注意事項などを説明

パンフレット、広報誌、各種SNS、ホームページ、メールなどに保全のための注意事項を記載

サイトが被害を受けた場合、現状や復旧に関する情報の発信

・自治体

保全活用計画などの配布、活用

- ・博物館学芸員
博物館の講座、野外学習会などで保全の重要性と具体的な行動を解説



写真. 海岸清掃

12-2. サイトの保全活動

概略

サイトの価値を守るためには、保全意識の普及のみならず適切な保全活動を行う必要があります。

課題

露頭の保護・保全や定期的な清掃などの活動が行われているサイトは一部です。行政による法に基づく保護や、地域住民による環境美化活動などの保全活動は行われていますが、当ジオパーク独自の活動は行えていないことから、これら各種団体との連携が課題です。

また、多くのサイトが山岳地帯にあることから、モニタリングを当ジオパークとしては実施できていません。

施策

会員、博物館学芸員、研究者、サイト管理者、各種団体からサイトの状況に関する情報を得るとともに、当ジオパークとして定期的にモニタリングできるサイトから実施します。その後、ジオガイドがモニタリングできるサイトに範囲を広げ、さらに山岳ガイド協会などとの連携を図って、サイト全般の状況把握に努めます。

破損や汚染など劣化したサイトの保護については、自治体、会員、博物館学芸員、研究者、各種団体と連携して改善に努めます。

活動主体（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
関係者と連携したサイトの状況の把握（モニタリング）
サイト毎の状況を把握したサイトカルテの更新
- ・博物館学芸員、研究者
サイトの保全活動を継続

- 保全部会への参加
- ・自治体
- 保全部会への参加
- サイトの状況に関する情報共有



写真. ジオサイトの保全

1 3. 組織強化 ～持続可能な経営基盤を整備する～

概略

当協会は民間組織で、主に会員会費や自治体からの補助金などの財務支援と、法人会員や個人会員、関係団体の活動支援が経営の基盤です。これらの経営基盤をより強固なものにし、ジオパーク活動の一層の発展を目指します。

13-1. 組織の活性化

概略

当協会は、会員を中心に専門部会を設け具体的な活動を展開していますが、国、自治体の支援、参画や、会員以外の関係団体との連携も欠かすことができません。関係者一体となり部会活動をはじめとするジオパーク活動の活性化に努めていきます。

13-1-1. 部会の活性化

概略

専門部会は当該部会に関心のある会員や専門員、学識経験者などが主体となって活動を行っています。この活動のより一層の活性化のためには上記以外の関係団体や一般会員との連携を欠くことはできません。

課題

会員のジオパーク運営に対する参画意識の向上と関係団体との連携における、それぞれの役割の明確化が課題です。

施策

会員や関係団体に対する部会活動への参画を呼びかけます。
協定を取り交わした団体との具体的な事業展開を進めます。

主体毎の役割（当協会以外の関係団体との連携推進）

- ・当協会
部会の紹介、開催、既存活動への参画
- ・国、自治体
部会への参画
- ・大学、研究者
部会への参画、助言
- ・会員（個人、法人）
部会への参画

13-1-2. 既存活動への参画

概略

関係団体とお互いに連携し、情報交換や活動紹介、行事案内などを実施し、お互いの活動を理解して展開を図ります。

課題

関係団体との情報共有が十分ではありません。

施策

情報を共有し、関係団体における活動に、当協会として参画若しくは協力をします。

主体毎の役割（当協会以外の関係団体との連携推進）

- ・当協会
関係団体との情報連携及び行事への参画
- ・関係団体
情報連携及び行事案内

13-1-3. 協定の締結

概略

協定を結んだ団体との具体的な活動を行っていくとともに、連携事業を確かなものにするため、関係団体との協定の締結を進めます。

課題

協定に基づく具体的な展開が図られていません。

施策

具体的な事業協力に向けたワークショップの開催や共同イベントの開催を実施

します。

主体毎の役割（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
協定団体と共同イベントに向けてのワークショップの開催、企画、共同開催
- ・協定団体
ワークショップの参画、共同イベントの企画、共同開催



写真. 富山県防災士会、富山大学との協定取り交わし

13-2. 健全な財政基盤の構築

概略

財政基盤は主に会員会費や自治体からの支援ですが、加えて当ジオパーク独自の商品開発を行い財政基盤をより強固なものにします。これによって、ジオパーク活動の一層の推進を目指します。

13-2-1. 新規会員の加入促進

概略

当協会も設立以来 10 年近く経ったことから、会員の高齢化などによる退会も目立ち始めています。これまで以上に新規会員の拡大による財政基盤の確保に努めます。

課題

一般へのジオパークの認知度が少なく、会員の拡大につながっていません。

施策

新規会員の加入促進行事を実施します。

主体毎の役割（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
一般参加型イベントの開催、諸団体への紹介
- ・自治体
ジオパーク活動の広報支援

- ・会員
ジオパーク活動の紹介及び会員勧誘

13-2-2. ジオパーク関連商品の開発

概略

当ジオパーク独自の商品開発を行い、当ジオパークの認知度の拡大や商品販売収益による財務基盤への貢献を図ります。

課題

扱っていただける企業への提案を積極的に行う必要があります。

施策

企業と共同企画、製造に向けた提案をします。販売イベントの開催をして購入していただける機会を設けます。

新商品だけでなく既存のポスターなどの販売も行います。

主体毎の役割（当協会以外の関係団体との連携推進）

- ・当協会
商品企画、販売企画、販売イベント
- ・自治体
販売イベント協力
- ・法人会員
商品企画、製造

13-2-3. ツアー収益の拡大

概略

新規ガイドの育成や既存ガイドのスキルアップ研修などによりガイド体制の強化を図ってきました。ツアー収益の拡大のためには、ツアー事業の拡大が基本となります。コロナ禍が収束に向かい、ツアーの拡大が見込まれます。

ツアー事業の拡大については、10-1. ツアーの実施に記載のとおりです。

13-3. JGN（日本ジオパークネットワーク）への貢献

概略

コロナ禍でJGNのイベントもオンライン開催が主流となっていましたが、2022年は全国大会が白山手取川ジオパークで盛大に現地開催されました。各地域ジオパークの良いところや問題などを活発に話し合い、関係者との親交を深めることができました。今後もJGNを通してのネットワーク活動に積極的に参加し当ジオパークの発展につなげる必要があります。

13-3-1. JGNへの参加とその活用

概略

JGN関連の主な行事として全国大会、全国研修会、地区大会などがあります。オンラインの普及でオンラインカフェ、オンラインシンポジウムなど小規模で負担のかからないイベントも増えてきたことから、ネットワークに対する貢献だけでなく、活用にも注力していける環境が整ってきました。より幅広い交流を展開します。

課題

ジオパーク関係者（団体・個人）とのネットワークの更なる展開が必要です。

施策

JGN関係イベントへの積極的な参加（全国大会・中部大会、研修会など）を継続します。また、JGN関係イベントの（中部大会、全国研修会）の幹事を引き受けるなど、当ジオパークの特色を他地域ジオパークに周知する機会とします。

主体毎の役割（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
近隣のジオパークとのイベントの企画、参画
当ジオパークの活動成果の他地域への発信
- ・会員、関係団体
イベントへの参画



写真. 日本ジオパーク全国大会 2022

13-3-2. JGNのワーキンググループへの参加

概略

扱うテーマが当ジオパークの課題に沿っているワーキンググループに積極的に参加することによって、人的交流やその分野の知識の深耕に役立てることができそうです。

課題

ワーキンググループへの参加が少ないことや、ワーキンググループにおける指

導的役割を果たせていないことが課題です。

施策

教育分野など重点取組事業に関連するワーキンググループを選択して積極的に参加します。

主体毎の役割（当協会以外の関係団体とは連携推進）

- ・当協会
専門員が中心となって参加

1 4. 実施計画

各々の事業計画について具体的な活動内容と期間内のスケジュールは次ページ以降のとおりです。

実施計画

大項目	事業名称	重点取組	活動内容	2023	2024	2025	2026	2027	
教育・情報発信～宝のをも広く共有する～	小中高校生を対象とした活動	○	ジオパーク出前授業、講師派遣 その他 他団体への協力 くろへ水の少年団、水みらいプロジェクト、富山地文 クラブほか	継続実施	→	→	→	→	
	大学生を対象とした活動		出前講座、講師派遣など	継続実施	→	→	→	→	
	生涯学習の支援		出前講座、講師派遣	継続実施	→	→	→	→	
	ふるさととジオ学習		リレー講演会	継続実施	→	→	→	→	
			ジオパーク散歩	継続実施	→	→	→	→	
			ふるさととジオ学習の内容・テキストの研究開発	ワーキンググループの立ち上げ	ワーキンググループによる研究協議	→	→	→	
			サイトおよび候補地の調査・開発・選定	稲村露頭、中ノ口 舟見野段丘崖の協 議	→	→	→	その他のジオサイ ト候補地について 検討	
			本ジオパークに関する調査研究への支援・助成	ワーキンググループの立ち上げ	ワーキンググループによる研究協議	→	→	→	
			ジオパーク活動の調査研究・発表	ワーキンググループの立ち上げ	ワーキンググループによる研究協議	→	→	→	
			E S D の実践	検討する組織の立ち上げ	検討の開始	→	→	→	
情報発信の改善	最新技術活用	○	メタバースにより情報（体験）を提供 （より多くの人と現地情報（体験）を共有する）	関連情報を収集、 アプリ事例を検討	先進企業とコロナボ し事例を検討	特定サイトをVR 化（実証実験）	→	特定サイトをVR で公開	
	看板整備		自治体からの看板製作・設置を受託 （統一様式による看板製作を推進する）	積極的に受注	→	→	→	→	
	パンフレット作成		パンフレットを作成・ 配布 （入会用や拠点備付用 など多様なパンフレッ トを作成してより多く の人に協会情報を提供 する）	定例 パンフレットを作成・ 配布	→	→	→	→	
	インターネット利用		ホームページを継続的に更新 SNS、YouTubeによる情報を発信 （多様なメディアにより情報を共有する） 自治体・企業団体へリンク等により情報を拡散 （より多くのルートを通じて情報を提供する）	季節ごとのサイト 情報などを継続的に 更新 継続的に提供 リンク提供を依頼	必要に応じて作 成・配布	→	→	→	
			ロゴマーク掲載を推進	掲載を依頼	→	→	→	→	→
			身近な（街中の）サイトを紹介（近隣への配布） （「遠くのサイトより身近なサイト」を知ってもら う）	街中サイトを検 討・選択	いくつかのサイ トで実施	→	→	→	
			関連自治体での写真展を展開	2～3の自治体で 実施	→	→	→	→	

実施計画

大項目	事業名称	重点取組	活動内容	2023	2024	2025	2026	2027	
	拠点施設展示		マスメディア（電波・新聞・雑誌等）との連携を強化	第3期基本計画を マスコミ発表	各種イベント等を マスコミ発表	→	→	→	
			拠点施設との連携を強化	各拠点ごとに連携 策を検討	各連携策を実施	→	→	→	→
			駅・空港等での展示を推進	積極的に展示を 実施（予算見合い）	→	→	→	→	→
			協会活動の「今」を会員向け に発信する	月次で発行	→	→	→	→	→
			「たてくろろジオパーク だより」の発行を継続	法人会員企業や自治体のイン フラネットに掲載してもら う	掲載依頼 → 掲載	→	→	→	→
			自治体の広報誌に折り込んで もらう	折込依頼 → 発行	※一斉には無理があるので、順に依頼する				
			「たてくろろ10年誌」を発行～配布	内容を検討、デー タ整理	「10年誌」を 発行～配布				
			「見聞録」の改訂（バージョンアップ）		改訂版の内容を 検討				
			JGNを通じて活動情報を全国に発信		マスコミ発表時に 情報を提供				
			付加価値の高いジオツアーの定常化		連携、普及				
ジオガイド体制の強化	ツアーの実施	○	多様なジオツアーの開発、実施	随時開発 実施、普及	→	→	→	→	
			自然環境を活かしたジオツアーの開発		開発、実施	→	→	→	
			旅行者者と連携したツアーの実施	実施	実施、拡大	→	→	→	
			県観光連盟、市町村観光協会との連携	連携要請	→	→	→	→	
			公認ジオツアーの認定と受付		理解促進、連携				
			ジオガイド、山岳ジオガイドのジオツアービジネスへの 支援		促進				
			ジオトレイルの設定と活用		調査 関係団体との連携				
			画一的でないジオガイドスキルアップ研修の継続	座学・現地研修の 実施	→	→	→	→	
			ツアーと連動した研修	座学・現地研修の 実施	→	→	→	→	
			新規ジオガイドの養成講座の実施		募集	実施			
ツアーリ ズム ～地 域を元 気にす る～			既存ジオガイドの資格更新			更新			
			山岳ジオガイドの養成・研修	随時養成 研修	→	→	→		
			先進連携を活かした横展開	先進事業発信 新事業の検討	→	→	→		
			ジオフードなど公認マークの創出	計画・準備	審査委員会設置 募集、マーク配布	→	→		

実施計画

大項目	事業名称	重点取組	活動内容	2023	2024	2025	2026	2027		
防災～災害に強い地域を目指す～	地域づくり	事業者との連携	ジオカフェ	活動方法検討 活動会員の増	実施 活動会員の増	→	→	→		
			企業間の新展開の場の提供						実施	
	地域間連携	○	地域や世代、分野が繋がる機会の提供	発信方法の検討 実施	実施	→	→	→	→	
			シンポジウムの開催	シンポジウムの企 画・開催	認定10周年イベン ト	あり方検討 シンポジウムの企 画・開催	シンポジウムの企 画・開催	→	→	
	SDG s の実践	○	企業におけるSDGs事業との連携	連携要請	→	→	→	→	→	
			SDGsをジオパークで具体化させる機会の提供	調査・研究 (仕掛けづくり)	チーム設置 計画	実施				
	経済活動への貢献	○	企業向けSDGs・ジオ教材の作成		→	→	準備	作成	活用	
			自然環境をかした経済活動の啓発	作成						
	防災～災害に強い地域を目指す～	防災知識の普及啓発	○	富山県防災士会との連携強化	防災士会との連携 強化/既存の防災啓 発活動に参加	→	→	→	→	→
				普及啓発活動	広報活動/防災行 事・イベントの共 同開催、協力	→	→	→	→	→
災害を正しく知る機会 の提供					会員向け研修会等 実施(防災学習施 設)	→	→	→	→	→
防災講演会の連携・協力				既存講演会との連 携・協力	→	→	→	→	→	
地域防災計画への協力				市町村防災担当と の連携/地域防災計 画への協力	→	→	→	→	→	
防災関連会議への派遣				学識経験者の派遣	→	→	→	→	→	
防災ツアア-の開発、実施とガイドの防災分野との連携 強化				ガイド研修で実施 (四季防災館等)	ガイド研修で実施 (四季防災館等) 防災ツアア-の開発	→	→	→	→	
保全活用計画活用				適宜改善、随時啓 発	→	→	→	→	→	
協会主催の各種講座、ツアア-				各種講座、ツアア- 実施時に保全意識 啓発	→	→	→	→	→	
保全意識の醸成				パンフレットなど	ガイドMAP記載	→	→	→	→	ガイドMAPその他 パンフレットに 記載

実施計画

大項目	事業名称	重点取組	活動内容	2023	2024	2025	2026	2027	
保護・保全～宝～ものを未来につなげる～	サイトの保全活動	○	被害状況や復旧に関する情報の発信	広報・SNS、HP、メール等での発信	→	→	→	→	
			保全活用計画などの配布、活用	→	→	→	→	→	
			博物館の行事に参画し保全の重要性解説	実施時に啓発	→	→	→	→	→
			サイトのモニタリング	事務局(64か所年1回) ジオガイド(9か所年各1回)	→	→	→	→	→
			サイトカルテの更新	適宜更新	→	→	→	→	→
			サイトの保全活動	自治体・会員企業・管理団体と協力	→	→	→	→	→
			会員の部会活動への参画呼びかけ	ワークショップの開催・広報で案内	→	→	→	→	→
			大学・研究者による学術面での支援・交流	シンポジウム参画	→	→	→	→	→
			関係団体の既存活動の案内と参画の呼びかけ	広報、SNS等で関係団体の行事案内と参画の呼びかけ	→	→	→	→	→
			協定団体との具体的な事業協力・展開(富山県防災士会、富山県自然保護協会、富山大学等)	各団体との共同イベントの開催	→	→	→	→	→
組織強化～持続可能な経営基盤を整備する～	JGNへの参加とその活用	○	新規会員の加入促進	ジオパークイベント等の企画	→	→	→	→	
			関係者との連携	ジオパークイベントの開催	→	→	→	→	
			全国大会への参加、発表会(分科会・ポスターセッション等)への参加	関係団体等に会員拡大のための広報活動	→	→	→	→	→
			全国研修会	参加	→	→	→	→	→
			他地区大会への参加	参加	→	→	→	→	→
			中部大会	佐渡10周年大会	→	→	→	→	→
			再認定審査	参加	→	→	→	→	→
			各種企画への参加	審査資料の作成 審査時対応	→	→	→	→	→
			ワーキンググループへの参加	オンラインカフェ、オンライン講演会・シンポジウムなど	→	→	→	→	→
			JGNのワーキンググループへの参加	参加先の検討 参加	→	→	→	→	→

第2期基本計画の総括

1. 人材育成

(1) 活動の評価

全21項目のうち、19項目（90%）で達成（おおむね達成）することができた。

①教育関連

- ・2020年度から2021年度の3年間はコロナの影響を受け、多くの活動が縮小された。
- ・2022年度もその影響は残っているが、活動が少し増えてきた。モチベーションは少し低下した。

②ジオガイド関連

- ・新規ジオガイドの募集育成や、スキルアップ研修を行うなど、ジオガイドの育成・技術向上に努めた。
- ・出前授業の実施にジオガイドが同行するなど、教育や生涯学習での活躍の場が徐々に増え始めた。

(2) 今後の課題

①教育関連

- ・エリアの広さ、サイトの豊富さを、うまくジオパーク活動の活性化に結びついていない。
- ・当ジオパークにおける活動の目的・目標について、具体的な事例・活動を通して、協議を重ね、モチベーションの向上を図る必要がある。

②ジオガイド関連

- ・拠点施設との連携を通じて、当ジオパークの認知度の向上に寄与する。
- ・定期的に新規ジオガイドを育成し、安定的なジオガイドの人数を確保していく。
- ・継続的なスキルアップ研修会の実施や、ジオガイド更新制度を着実に実施し、ジオガイドの質を高めていく。

(3) 個別実績

達成：計画通り達成できた 未達：達成には至らなかった

非着手：事業ができなかった

事業名称	活動内容	達成	未達	非着手	備考
小中学生向け教育	新たに作成する標準テキストの活用	○			新たな教材を各種作成して、教育現場で活用した。ただ、標準テキストとするには至らなかった。
	出前授業の実施	○			富山市、黒部市、滑川市、上市町で実施した。
	自治体へのジオパーク副読本の作成依頼（学習シートの作成）			○	
	水みらいプロジェクトの継続（BBT）	○			BBTと連携して実施したが、2019年度以降は学校からの応募がなく実施できなかった。
	水みらいプロジェクトへの講師派遣	○			同上
	小中学校で行われている既存の関連学習の調査（自治体）	○			出前授業の企画のため実施した。
	ジオパーク教本の作成と運用（自治体）		○		2018年度に完成した滑川市の副読本のバージョンアップ作業に参画した。副読本を使用した授業には携わっていない。
大学生向け教育	ジオパークを取り入れた講義の実施（講師の派遣）	○			富山大学では包括連携協定の締結とともに、呉羽山断層ツアーや課題解決型学習など講座への参画、富山市事業（プラとやま）における協業などを行った。
社会人向け教育	職域対象の普及講座、公民館等での出前講座の実施	○			宇奈月温泉の旅館、呉羽・萩浦公民館などで実施した。
	博物館施設との連携強化	○			8カ所ある拠点施設と連携した。
	ジオ教育（受託）	○			出前講座を受託した。
	拠点施設としての機能の強化	○			ジオパーク関連展示が導入された（立山カルデラ砂防博物館、魚津埋没林博物館、魚津水族館）。
	ジオパークを取り入れた生涯学習活動の実施と広報（自治体）	○			富山市民大学、新川ジオさんぽなどに参画した。
	ジオカフェ	○			飲食店の協力を得て実施した。
	リレ講演会	○			講師を招いて実施した。
ジオガイド体制の強化（スキルアップと講師派遣対応）	ジオガイドスキルアップ研修の継続	○			毎年複数回の研修を企画して実施した。
	ジオガイド更新制度の確立	○			ジオガイド人材育成部会と企画部会の協力で制度を整備した。
	新規ジオガイドの養成講座の実施	○			12名の新規ジオガイドを認定した。
	山岳ジオガイド対象のジオガイド養成	○			8名の山岳ジオガイドを認定した。
	各種研修の際の講師派遣（博物館）	○			立山カルデラ砂防博物館、富山市科学博物館、魚津埋没林博物館、魚津水族館などから講師派遣を得た。
	各種研修の際の講師派遣（大学）	○			富山大学から講師派遣を得た。
		19	1	1	
		90%	5%	5%	

2. 情報発信

(1) 活動の評価

- ・全41項目のうち、26項目（63%）で達成（おおむね達成）することができた。
- ・「最新技術活用」では、具体的なアプリケーション事例がなく、このため技術活用の検討が行えず、非着手となった。
- ・当初の計画以外では、「立山黒部ジオパーク見聞録」を発刊し、「写真展」を開催するなど、内外から高評価を得た。
- ・山岳ジオパークとして、多くの関係者を繋ぐ国際シンポジウムを開催した。
- ・付加価値の高くガイド料を支払ってもらえるツアーを旅行業者と連携して実現させた。

(2) 今後の課題

- 地域や年代、活動分野を繋ぎ、新たな展開を行う機会を設けることが望まれる。
- 次期も最新技術を活用した情報発信を行っていくが、具体的なアプリケーションを設定して進めていく。
- 定期的な広報誌発行やパンフレット作成・配布を行いつつ、マスメディアとの連携による新たな情報発信を模索する。
- 複数日ツアーや山岳ツアーなど立山黒部を活かしたツアーの開発・実施が求められている。

(3) 個別実績

達成：計画通り達成できた 未達：達成には至らなかった

非着手：事業ができなかった

事業名称	活動内容	達成	未達	非着手	備考
最新技術活用	情報収集、活用方法の検討			○	広報啓発部会で検討も進められなかった。
	基本構想、基本設計（大学）			○	富山県立大学と双方向型データベースの構築を相談も進められなかった。
	情報の提供（企業）			○	ジオインフォマティクスと地図情報の活用について相談も進められなかった。
看板整備	統一デザインのコンセプト・フォーマット作成、設置場所の検討、複製、設置作成	○			プロジェクトを構成して策定した。
	看板設置（受託）	○			富山市、黒部市から受託した。
	看板設置（自治体）	○			富山市、黒部市エリアでウェルカム看板、解説看板が設置された。
	ジオストーリーの裏付け	○			研究者・学芸員に看板の解説文を監修してもらった。
サイトや拠点施設における看板の設置の促進	立山ルート等で可視化	○			看板改修までの期間は既存看板にロゴマークやQRコードを貼付した。
	解説看板の計画的設置		○		計画的に設置するに至らなかった。
パンフレット作成	パンフレット作成、配布		○		新版は作成できなかった。
	パンフレット（受託）		○		黒部市からフィールドカード作成業務を受託した。
	自治体による配布	○			ジオパークだよりを図書館などに設置してもらっている。
	企業による配布、広告協賛		○		ジオパークだよりに企業広告を掲載している。
インターネット利用	HP・SNSの管理	○			We b、FaceBook、インスタグラムなどを介して発信している。
	リンク等による情報拡散（自治体）	○			支援自治体のホームページとリンクさせた。
	リンク等による情報拡散（企業）			○	企業とのリンクは張れていない。
情報発信の改善ビジュアルの更なる向上	ロゴ掲載の推進		○		支援自治体や拠点施設の情報発信媒体にロゴマークを貼ってもらうことは徹底できていない。
	HPリンクの徹底	○			支援自治体や拠点施設のホームページとリンクを張った。
拠点施設展示	博物館連携強化、全体展示の提案		○		積極的な提案には至っていない。
	博物館による展示	○			立山カルデラ砂防博物館、魚津埋没林博物館、魚津水族館、立山博物館に展示がある。
	駅、空港における展示空間の確保	○			富山空港に定期期間展示がある。
ツアー実施	ツアーの企画、定例化	○			JTBで実現させた。日本旅行、西部トラベル、魚津交通とスポットツアーを実現させた。
	ツアーの企画（受託）			○	
	ツアーの実施（企業）	○			JTB、日本旅行、黒部・宇奈月温泉観光局、西部トラベル、魚津交通で実施した。
拠点施設常駐	うなジオ	○			土日祝日に当番のジオガイドが常駐している。
ジオガイド強化（ツアーとの連携）	ツアーと連動した研修、ガイドスキル研修	○			スキルアップ研修で実施している。
既存の観光資源のジオツーリズムへの活用推進	エコツーリズムとの関係付け 既存の地域産品の価値づけ	○		○	スカイインテックと連携して呉羽梨に適用した。
富山県や博物館と連携を図りながら防災知識の普及啓発	防災知識の普及啓発			○	
	博物館との連携	○			立山カルデラ砂防博物館と講演会を共催した。
シンポジウムの開催	地域の合意形成	○			環境省や活断層学会等と連携し、毎年シンポジウムを開催した。
	国際地質シンポジウム	○			全国山の日協議会に協力し、国際山岳年プラス20シンポジウムin黒部（特別協賛）を開催した。
広報誌の発行	「たてくるジオパークだより」の発行	○			月次で刊行している。
マスメディア（ラジオ）の活用	『金下木の小部屋 時空の扉人たてくるジオパーク』（富山シティエフエム）	○			専門員、ジオガイドが出演した。
	『でるラジ 先生勉強になります』（北日本放送）	○			専門員が出演した。
身近な「なぜ」から地域を語る取組みを	ジオガイドのスキルアップ	○			スキルアップ研修を実施している。
	学術的な情報をまとめて電子ファイル化する	○			サイトカルテを整備した。
	見聞録の出版	○			富山県地質調査協会の協力を得て、会員、ジオガイドと作成、出版した。
防災や気象変動に関する情報発信	富山県防災士会連携協定と防災教育の実施		○		協定を締結したが、それに伴う事業が実施できなかった。
	室堂のハザードマップ作成	○			富山大学、富山市科学博物館と連携して、弥陀ヶ原火山のハザードマップを作成した。
	講演会の実施			○	

26 7 8
63% 17% 20%

3. 環境保全

(1) 活動の評価

- ・国、自治体をはじめとする関係者の協力のもとに保全部会を設置し、2022年3月には保全活用計画を策定することができた。
- ・ジオサイトカルテを作成し、順次更新を行った。
- ・富山県自然保護協会、宇奈月町下立財産区議会と協定を締結することができた。
- ・富山県防災士会との協定締結や防災講演会を行ったが、継続的な防災事業を実施できていない。

(2) 今後の課題

- ・保全意識の醸成を具体的に進める。
- ・サイトのモニタリング体制を整備する。
- ・防災に関する取り組みを実施する。
- ・様々な部会に関わる事業のため、連携をとりながら着実に計画を進めることが求められている。

(3) 個別実績

達成：計画通り達成できた 未達：達成には至らなかった

非着手：事業ができなかった

事業名称	活動内容	達成	未達	非着手	備考
保全意識の醸成	教育活動、関連ツアーでの保全思想の啓発		○		十分ではない。
	看板での注意喚起			○	
	パンフレットでの注意喚起			○	
	ジオサイトの損傷等に関する情報発信			○	
	生涯教育、関連ツアーでの保全思想啓発（博物館）		○		立山カルデラ砂防博物館で講演会を実施した。
	保全に関する説明書などの配布、活用（自治体）		○		立山黒部ジオパーク保全活用計画書を作成した。自治体での活用には至っていない。
ジオサイトの保全活動	ジオサイトカルテの作成（最新技術活用と連携する地域内の自然保護団体との連携強化）	○			作成した。
	地域内の自然保護団体との連携強化	○			富山県自然保護協会と協力協定を締結した。
保全のための法的保護など	ジオサイトの保護・保全活動の継続（博物館）			○	
	土地管理規約の締結	○			宇奈月町下立財産区議会と協定を締結した。
地質遺産およびそれに関する地質資産の保全のあり方の再検討	文化財等への指定（自治体）			○	
	保護・保全部会の新設	○			国、自治体の協力を得て、保全部会を設置し、計画策定を進めた。
地域コミュニティや地域住民を巻き込んだ活動の推進	保全計画策定	○			環境省の受託事業を活用し、立山黒部ジオパーク保全活用計画を策定した。
	公民館活動との連携拡充			○	
	富山県防災士会連携			○	

5 3 7
33% 20% 47%

4. 組織強化

(1) 活動の評価

- ・SDG s について対応できなかった。
- ・財政基盤のひとつであるジオパーク関連商品の開発ができなかった。
- ・ジオパークネットワークへの積極的な参加（全国大会・研修会・ZOOM研修会など）をした。

(2) 今後の課題

- ・新規会員の加入促進会員拡大。
- ・ジオパーク関連商品の開発
- ・各種団体との協定に基づく具体的な事業展開

(3) 個別実績

達成：計画通り達成できた 未達：達成には至らなかった

非着手：事業ができなかった

事業名称	活動内容	達成	未達	非着手	備考
部会の活性化	会員の部会活動への参画呼びかけ		○		十分ではなかった。
	積極的な部会活動への参画(会員)		○		十分ではなかった。
	保全部会の新設	○			設置した。
	保全部会への参画	○			部会を開催した。
	学術面での支援(大学・研究者)		○		十分ではなかった。
ESD研究会の新設ないし他団体との連携	研究会の開催	○			環境省EPO中部と連携してESDダイアログを開催した。
	大学、研究者からの助言	○			富山大学、大正大学の教授と意見交換をした。
	研究会への参画(教育機関)	○			環境省EPO中部と連携したESDダイアログに参加してもらった。
SDGs研究会の新設ないし他団体との連携	研究会の開催			○	
	大学、研究者からの助言			○	
	研究会への参画(企業)			○	
既存活動への参画	立山黒部世界ブランド化推進協議会や世界一美しい滝クラブへの協力・参画			○	
協定の締結	大学・博物館や企業との協定締結	○			富山大学と締結した。プラ富山の共同実施や、日本活断層学会2021年度秋季学術大会を大学と共催で開催するなど事業協力もできた。
	各種団体との協定の締結と事業協力	○			宇奈月町下立財産区議会、富山県自然保護協会と締結した。富山県自然保護協会とは合同の写真展を開催する事業協力もできた。
	他ジオパークとの相互誘致ツアーの企画	○			糸魚川ジオパーク、白山手取川ジオパークと連携して実施した。
ツアーの実施	ガイド派遣	○			同上
	売れる出版物			○	
ジオパーク関連商品の開発	商品の共同開発			○	
	商品のPR			○	
	出版物の販売	○			立山黒部ジオパーク見聞録を販売した。
健全な財政基盤の確立	新規会員の加入促進イベント等でのPRブース出展			○	
	新規会員の加入促進会員拡大事業の検討		○		具体的な実施に至っていない。
	健全な財政基盤の確立		○		会員の協力を得て新規会員の加入を得た。
経常的な活動推進	全国大会、中部ブロック大会、全国研修会	○			参画した。
ジオパークネットワークへの積極的な参加とその活用の推進	情報の発信	○			メーリングリストを活用した。
	情報の共有	○			各種大会や個別イベントに参加した。
ジオパークプログラムに対する関係者の共通理解を得る会	ユネスコ等の理念の理解を深める学習会	○			ワークショップを実施した。
	各活動のジオパークプログラムにおける位置づけの確認	○			ワークショップを実施した。
事務局体制の強化とジオパーク活動の実質的な担い手の増員	専門員の増員	○			富山市、魚津市の協力を得て、2名体制とした。
	職員の交替による市町村、団体との連携強化	○			自治体から専門員を派遣してもらった。
あらゆるレベルでの優れた取り組みの地域間連携の強化	実務担当者レベルの交流による地域間連携の促進			○	
	学芸員、専門員会議の運営			○	

17 5 10

53% 16% 31%

当計画は立山黒部ジオパーク基本計画策定委員会において、当協会による第2期の総括を受け、原案の提示と内容に対する討議を行うとともに、当協会、自治体など関係者と幅広く意見を交換する機会を設けながら、策定作業が行われました。

当協会は同委員会の答申を受けて作成されました。

同委員会の構成員と開催状況は以下のとおりです。

構成員

委員長 飯田 肇 当協会理事 企画部会長
富山県立山カルデラ砂防博物館 学芸課長

委員 伊関 健太 当協会 企画部員

委員 國香 正稔 当協会理事 研究教育部会長
黒部市吉田科学館 理事

委員 金子 一夫 当協会 研究教育部会員

委員 志村 幸光 当協会理事 ジオガイド人材育成部会長
富山県ナチュラリスト協会 顧問

委員 大野 博美 当協会 ジオガイド人材育成部会員

委員 丹保 俊哉 当協会 ツーリズム部会員
富山県立山カルデラ砂防博物館 学芸課長補佐

委員 今井 喜義 当協会理事 広報啓発部会長

委員 毛利 義朗 当協会 広報啓発部会員
株式会社スカイインテック 広告事業部長

委員 安江 健一
富山大学学術研究部都市デザイン学系 准教授

委員 山本 健太郎
大高建設株式会社 総務部係長代理

オブザーバー
王生 透
黒部市生涯学習文化課 主幹

開催状況

2022年 8月 4日 第1回委員会
2022年 9月 12日 第2回委員会
2022年 12月 6日 第3回委員会
2023年 1月 21日 意見交換ワークショップ
2023年 3月 20日 第4回委員会